

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書（終了）

1. 研究課題

（和文）現代中国文化の深層構造

（英文）Deep structure of the modern and contemporary Chinese cultures

2. 研究代表者氏名

石川禎浩

3. 研究期間

2010年04月 - 2015年03月（5年度目）

4. 研究目的

現代の中国文化は、芸術にしても思想にしても、その中に歴史の刻印や記憶、そして政治との軋轢を内包している。それらは、例えば文化大革命や民主化運動弾圧のように、公的に巧みに封印されてはいるが、間違いなく文化の深層を形作っている。本研究班は、こうした現代中国の文化の深層構造を、20世紀初頭から今日に到るおよそ100年を対象に、歴史学的手法によって解明しようとするものである。政治との関わりで言えば、現代中国文化は旧来のイデオロギーと如何なる摩擦を抱えているのかなどの課題の解明が目指されるであろう。また、文化活動そのもので言えば、今日の文化の多様化は、清末から民国時期の文化的カオスと類似の状況なのか、そしてそもそも中国という文明体系が近代以降の異文明との接触の中で、それへの接合をはかるということとはどのような文明史的意味を持つのか、これらがすべて俎上に載せられるであろう。

6. 研究成果の概要

2010年より5年間にわたった本研究班では、毎年延べ参加人数が約300名に上り、政治史、社会史、思想史、文学史等、多角的な見地から「現代中国文化の深層構造」をめぐる議論を深めることができた。海外の研究者や若手の研究者から積極的な参加を得たことも、重要な成果である。京都において在外研究中の研究者から多くの参加を得たことは、本研究班の活動が国内外において注目を集めていたことの証であり、本研究班で修士論文の予備報告を経験した院生の多くは博士後期課程に進学し、その後の研究成果を国内外に発信している。また2015年2月、中国において出版した『近代東亜翻訳概念的発生与伝播』は、本研究班と連携した研究成果と称するものである。このように、開かれた運営を基本としてきたが、論文集の作成にあたっては厳密な査読を行い、その結果、9篇の論文を採録することに決定した。2015年3月末時点では2校の校正まで進捗しており、5月ごろの出版の予定である。

8. 共同研究会に関連した公表実績

狭間直樹、石川禎浩主編、袁広泉等訳『近代東亜翻訳概念的発生与伝播』北京：社会科学文献出版社、2015年2月

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

本研究班は2015年3月をもって終了するが、論文集は2015年5月に出版する。